

平成 30 年 4 月 19 日現在

機関番号：13301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12821

研究課題名(和文)なぜドイツ人俘虜は第九を初演できたのか？ドイツ租借時代の青島の音楽活動について

研究課題名(英文)Music activities in the former German concession Qingdao.

研究代表者

志村 恵 (Shimura, Megumi)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：50206223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：ベートーベンの交響曲第九番の日本初演は、1918年ドイツ人俘虜によって、坂東俘虜収容所で行われた。本研究では、この初演を検討する前提として、ドイツの租借地時代の青島における音楽活動を当時青島で発行されていたドイツ語新聞『青島新報』、『徳華彙報』等を主な資料として考察したものである。

本研究により、租借時代の青島では、第三海兵大隊軍楽隊を中心とするさまざまな軍楽隊や芸術科学協会等によって、極めて高度な定期演奏会や多彩なコンサートが年間を通じて開催され、当時の市民や軍関係者が本国ドイツにいるのと同じような文化生活(特に音楽)を営んでいたことが明らかにされた。

研究成果の概要(英文)：The first premiere of Beethoven's "Ninth Symphony" in Japan was played in 1918 by German captives in the POW Camp Bando. As a preliminary step to discuss the premiere, this research project is aimed to give an overview on the music activities in the former German concession Qingdao during the time of occupation, based on German newspapers of those days issued in Qingdao: "Tsingtauer Neueste Nachrichten", "Deutsch-Asiatische Warte" etc. It could be disclosed that all over the year very different high-level concerts and music events have taken place there, which were organized and performed by several military brass bands (for example the brass band of the III. Sea-Battalion) and the "society for science and fine arts in Qingdao" etc., and furthermore it has been unveiled that the Qingdao citizens as well as the military personal enjoyed the cultural life there (especially the music life) just as in their home country.

研究分野：ドイツ学

キーワード：第九交響曲 ドイツ租借地 青島 音楽活動 文化政策

## 1. 研究開始当初の背景

これまで日本においては、全国16か所の俘虜収容所の文化活動についての研究は盛んだった。特に音楽活動に関しては、ベートーベン作曲第九交響曲の日本初演にまつわる議論もあり、かなりの蓄積がある(富田1991、高辻2003、堤2003、星2007、井戸2007、岩井他2008～、田村2010等)。第九初演に関しては、1918年6月の坂東俘虜収容所(徳島)におけるドイツ人俘虜の全曲演奏をもって初演とみなすと一般には考えられている。しかし、なぜこの第九初演が俘虜収容所という特殊な空間でなされたのかという点については、ドイツ人の高い音楽性に帰結されることが多い(棟田1997、温2006他)。

一方、ドイツにおける租借地研究は、植民地研究一般の枠組みで行われていたが、近年、「模範的植民地」と称せられた列国に対抗する青島の租借地政策に対する批判的研究が始まっている。その中心となっているのがLeutner(1994)及びMühlhahn(2000)であり、日本においてもこの議論を踏まえた膠州・青島の経済政策に関する研究が最近相次いでいる(浅田2011他)。

応募者は、1992年の金沢大学図書館所蔵の青島鹵獲図書の見直し以降、鹵獲図書の全国所蔵調査及び青島における図書館の研究(2000-2009)、青島におけるドイツ宣教師の宣教活動についての研究(2008-)を行ってきたが、かねてより俘虜の音楽活動に関しても、ドイツ側史料を利用した租借地における文化政策全体との関係や音楽活動の実際を明らかにする必要性を意識してきた。

## 2. 研究の目的

本研究は、前述のようにドイツ人の文化的特性に帰せられがちな第一次世界大戦後の日本国内のドイツ人俘虜収容所における音楽活動を脱神話化し、そもそもなぜ俘虜収容所内で高度の音楽活動が可能だったのか、そ

の前提条件、つまりドイツ租借地時代の青島の文化活動を明らかにするものである。

この目的のため、俘虜たちが渡日前に居住していたドイツ租借地時代の中国・青島における文化活動、特に音楽活動を当時の史料(官報、新聞等)をもとにまとめるとともに、その背景にあった租借地におけるドイツ帝国政府及び海軍・総督府の文化政策全体及び文化交流の実態について、当時の史料(海軍・総督府関係資料：ドイツ公文書館軍事部門所蔵等)に基づき検討する。

## 3. 研究の方法

本研究では、以下の3つのポイントによって主に一次史料を調査し、前述の研究目的を達成するものとした。

1) 租借地青島における音楽活動の概要を当時の一次史料、すなわち青島で発行されていたドイツ語新聞"Tsingtauer Neueste Nachrichten"(日刊、金沢大学所蔵)、"Deutsch-Asiatische Warte"(週刊、金沢大学所属)、"Kiautschou-Post"(週刊、京都大学所蔵)の、特に演奏会に関する予告記事・批評記事等を閲覧・分析することでまとめる。

2) 青島在住の音楽家の他の租借地における演奏活動の概要を当時の一次史料、すなわち上海で発行されていたドイツ語新聞"Der ostasiatische Lloyd"(日刊、のち週刊、京都大学所蔵)の記事を閲覧・分析することでまとめる。

3) これらの活動を可能にしたドイツ帝国・海軍総督府による租借地の文化政策の方向性(「模範的植民地」としての文化プレゼンスの顕示)とその中での音楽の位置付けの確認を当時の一次史料、すなわちフライブルクにあるドイツ公文書館軍事部門所蔵の青島関連文書(主にRM3)を閲覧・調査することで批判的にまとめる。

#### 4. 研究成果

本研究では主に“Tsingtauer Neueste Nachrichten”（金沢大学所蔵）に掲載された音楽会や各種コンサート、音楽イベントの予告記事、批評記事を閲覧・検索し、さらにはそれを“Deutsch-Asiatische Warte”（金沢大学所蔵）と“Kiautschou-Post”（京都大学所蔵）の記事で補強し、また上海で発行されていた“Der ostasiatische Lloyd”（京都大学所蔵）の記事をも参考にし、青島での旧租借時代の音楽活動を中心とした文化活動と青島の音楽活動を担った第三海兵大隊軍楽隊での中国各地での演奏会活動についての概観を得ることができた。

すなわち、1898年から1914年にかけてのドイツ租借時代の青島においては、第三海兵大隊軍楽隊、膠州海軍砲兵軍楽隊あるいは東洋艦隊の旗艦クラスの軍艦付属の軍楽隊等を中心に、芸術科学協会や同協会に所属する混声合唱団、来訪してきた個人演奏家等が冬のシーズンの定期演奏会や特別演奏会、夏のシーズンのガーデン・コンサートや海岸コンサート、さまざまな演奏会付きのイベントを、海員会館や総督府学校講堂、ハインリヒ皇子ホテルおよび同ホテル付属コンサートホール、中央ホテルや海岸ホテル、海岸のパビリオン、あるいはさまざまなレストラン等を会場に開催し、その頻度は多い年（1908年・09年のシーズン）には記録で確認できるだけで99回に達している。租借地時代の青島においては、このようにドイツ本国と比べてもそんな色のない音楽活動が営まれ、市民や軍人は日常生活の中でそれらを楽しんでいた。もちろん、それは列強に植民地獲得競争で後れを取っていたドイツが、自ら「模範植民地」と標榜していた青島において、ドイツ帝国のプレゼンスとドイツ文化の優越性を音楽活動の展開をも通じて示そうとしていたことによるのであるが、第一次世界大戦後に俘虜となったドイツ人たちが日本各地の

俘虜収容所で行った音楽活動の前提となったことは疑えない。

また、2015年と2016年の二回、ドイツ・フライブルクにあるドイツ公文書館軍事部門に所蔵されている旧ドイツ海軍の史料（RM3等）を調査することで、第三海兵大隊軍楽隊の予算化や発展プロセス（特に1905年の増員）を裏付けることができたほか、アフリカ等の他の植民地における軍楽隊の養成・訓練・活動などについての知見も得られた。

本研究で得られたこれらの研究成果については、後述のように『ドイツ語文化圏研究』に「ドイツ租借時代の青島における音楽活動について」との論文を寄稿したが、さらに詳細な論文をドイツ語で公表する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

志村 恵、ドイツ租借時代の青島における音楽活動について、ドイツ語文化圏研究、13号、2016、25-40.

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕  
ホームページ等 なし

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

志村 恵 (SHIMURA, Megumi)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：50206223

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者 なし